



- 2面 市政功労者表彰 受賞者を決定
- 3面 秋の火災予防運動
- 4面 市公園アダプト事業
- 5面 健康 6・7面 みんなの窓

人口●198,619(+224) 世帯数●83,610(+935)
 2020年10月1日推計 ()は前年10月1日比
 発行・伊丹市広報課



市制施行80周年記念対談 有村架純×藤原市長

11月10日は、市制施行80周年記念日です。同記念にちなみ伊丹大使の有村架純さんと市長が対談を行いました。本市の出来事や有村さんの思い出、今月始まるドラマなど盛りだくさんの話題です。



有村さん・伊丹市の皆さんこんにちは。伊丹大使を務めさせていただいている有村架純です。

今日は、仕事や地元のことなどいろいろなお話ができればと思います。

市長・架純さんは今、ドラマの撮影中とのことですが、どんなドラマですか。

有村さん・10月27日(火)午後9時からスタートする「姉ちゃんの恋人」です。今まで演じた役とはまた違った感じで、高校生の時に両親を事故で亡くし、ホームセンターで働きながら弟3人を養う「肝っ玉姉ちゃん」の安達桃子という女性を演じています。

市長・お会いするのは伊丹大使をお願いした2013年以來7年ぶりですね。一昨年から昨年にかけて、続けて主演映画も公開されましたね。今や日本を代表する女優さんです。

有村さん・10月27日(火)午後9時からスタートする「姉ちゃんの恋人」です。今まで演じた役とはまた違った感じで、高校生の時に両親を事故で亡くし、ホームセンターで働きながら弟3人を養う「肝っ玉姉ちゃん」の安達桃子という女性を演じています。

市長・お会いするのは伊丹大使をお願いした2013年以來7年ぶりですね。一昨年から昨年にかけて、続けて主演映画も公開されましたね。今や日本を代表する女優さんです。



表するムービースターとなられ、私もファンの一人として嬉しく思っています。

架純さんは、伊丹市に住んでいた時に俳優を目指されたのではないかと思うのですが、そのきっかけを教えてください。

有村さん・中学3年生の時に芝居に挑戦してみたいと思ったけれど、周りの目も気になって言い出せなかったんです。芸能事務所に入れて上京すると決まったら言おうと。

オーディション雑誌を買って、何回も履歴書を書いて家族に写真を撮ってもらって送っていました。

市長・映画やテレビに出たいと思う人は多いかもしれないけれど、実際に挑戦して実現したというのが素晴らしい。

有村さん・自分でもびっくりしました。行動を起こすということは本当に俳優をやりたいんだと感じました。

市長・今後、挑戦したいことはありますか。

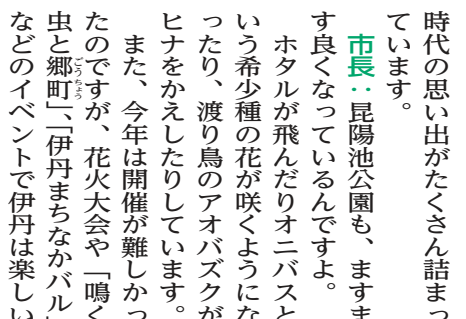
有村さん・幅広い役柄に挑戦できる場もある舞台に挑戦していきたいです。

市長・舞台、面白いですね。ところで架純さん、伊丹の好きな場所ありますか？

有村さん・昆陽池公園です。公園の近所に住んでいた頃、セミ捕りや犬の散歩をしたり、花見やピクニックをしたり。青春時代の思い出がたくさん詰まっています。

市長・昆陽池公園も、ますます良くなっているんですよ。ホタルが飛んだりオニバスという希少の花が咲くようになったり、渡り鳥のアオバズクがヒナをかえしたりしています。

また、今年は開催が難しかったのですが、花火大会や「鳴く虫と郷町」「伊丹まちなかバル」などのイベントで伊丹は楽しいまちと思ってもらえるようになってきました。



住みたいまちになれば、移り住む人も自然と増えていくと思っています。

そうそう、架純さん、お酒はたしなまれますか。

有村さん・はい。

市長・伊丹は清酒発祥の地ということ、酒をテーマにしたイベントも数多く開催しています。伊丹のまちで清酒ができ、その歴史的魅力や特色を通じて文化や伝統を語る阪神間5市のストーリーが今年、日本遺産に認定されました。これからPRしていきます。

有村さん・すごい。海外からの観光客なども増えるといいですね。

市長・酒や昆陽池も併せて伊丹のまちを楽しんでもらえればと。さらに有村架純さんが育ったまちということもアピールポイントだと思っています。

では、最後に市民やファンの方々にメッセージを。

有村さん・いつも応援してくださる皆さん、本当にありがとうございます。伊丹を離れて10年経ちますが、久々に実家に帰るとほっとしますし、伊丹には大切な友達もいます。

また伊丹に訪問させていただいて、皆さんと交流する場を設けられたらいいなと思います。

伊丹は、いいところがたくさんあるまちだと思うので、守りたいものを守りながら新しい時代を築いてほしいと思います。

体にはくれぐれも気を付けて毎日、後悔のない日々を過ごしてください。

★対談動画をYouTubeに配信
 対談は、市公式YouTube(下二次元)から読み取り可)で配信します。

市制施行80周年を祝して

市長 藤原 保幸



市制80周年を迎えた今、少子高齢化の進展に加え、新型コロナウイルス感染症拡大を防

市議会議員 佐藤 良憲



本市が、昭和15年11月10日に市制を施行してから80周年を迎えることを心からお祝い

「新しい生活様式」への対応やAIなどの技術革新が、私たちの生活やまちの姿を変えるなど、時代は変革期を迎えています。先人は、幾多の困難を乗り越えて、今日まで伊丹のまちを発展させてきました。

併せて地域に根付く「市民力」や先人から受け継いできた豊かな歴史や文化、恵まれた自然環境を次世代につなぎ、市内外の皆さまから「選ばれたまち」として進化し続けなければなりません。全ての市民が生き生きと暮らし、子どもたちが健やかに成長できる、「夢と魅力あふれるまち」の実現に向け全力で取り組んでまいります。

市民の皆さまには、激動の時代の中、たゆまぬ努力と英知によりさまざまな困難を克服し、本市の地域資源や魅力を守り育てていただきましたことに敬意と謝意を表します。

今年、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が、市民生活や企業活動、社会活動に大きな影を落としています。

架純ちゃんに聞いてみた!

Q・今年デビュー10周年。どんな10年？

A・ずっと作品に関わらせていただき幸せだったなと思います。素敵な出会いもたくさんあったし、いろいろな現場で経験を積ませていただきました。

苦しい時期もあったけど、今思えばそれも自分の財産です。

Q・「伊丹に帰ってきたな」と感じる時は？

A・実家に帰って母の顔を見た時、友達に会った時です。あえて迎えに来てもらわず、阪急電車の伊丹線に乗って帰ったことあります。バレなかったです(笑)。

Q・伊丹を思い出す時は？

A・割と頻りに思い出しています(笑)。そんな時は地元の友達に電話することが多いです。

Q・ストレス発散法は？

A・一番は友達に会うこと。少

「そのためにどうすればいいんだろう」と考え逆算して行動することが大切だと思います。夢に近づくために自分で物事を選択していれば自然とたどり着いている。先のことを不安に思うより、目の前の選択肢の中から自分が大事にしたいものを選んで進んでほしいです。